



「笹川杯作文コンクール2011」～中国語で応募～ 第4回優秀賞作品

「もしも自分が宮崎駿監督だったら」

広東省 張梓燦

日本が大地震という災害に見舞われたと知って、直ぐに私は関心を寄せている日本の著名人に関する情報を血眼になって探し求めた。私が非常に崇敬している日本アニメの大家、宮崎駿先生もその中のひとりである。

その時、心と珍妙な考えが私の頭をよぎった。もし自分が彼のような真善美に満ちた心を持つお年寄りだったら、日本で大地震が発生した後、一体どんなことを考え、話し、行うのだろうか。

もし自分が宮崎駿監督だったら、私は日本の被災者に「僕たちは絶望する必要はない」（宮崎監督の談話より）と語りかけたい。

『もののけ姫』の和尚は、「一面の凶作が呪いのせいだとしたら、世界全体が呪われているのだ。重要なことは、死によって頭を狂わされてはならないことだ」と話している。地震と津波が発生したことで、“2012年世界の終焉”なる迷信に囚われ、混乱、恐怖、絶望に陥る人が現れた。しかし、なぜ、あなた方は買いだめや自殺までして内心の恐怖を吐き出したのだろうか。忍耐強さで世界に知られる日本人が、そんなにたやすく打ち負かされてしまったのだろうか。

『もののけ姫』では、度重なる対戦を経て姫が腕を失ってしまうが、それでも彼女は穏やかに「始めからやるだけ」ということを口にしていく。地震が発生し、あなた方は災害がもたらす巨大な変化と放射能の影響に直面せざるを得なくなった。しかし、どうということはない、始めからやればいいのか。重要なのは、気にせずしっかりと勇気を持って最後まで歩むことである。

『千と千尋の神隠し』では、両親が突然ブタになってしまうという事実が、小さな千尋に深い孤独と恐怖心をもたらす。後には友人である白の助けも失うが、最後には臆病だった少女が両親と友を救うために努力して成長を遂げるのである。彼女が誰よりもはっきりと生きていたからこそ、両親の命はつながったのであり、あの素晴らしい友愛を得ることができたのである。だから、“自分だけが助かった”ことを気に病まないでもらいたいし、「あの人がいなくなったら、生きていけない」と落ち込んだり恐れたりしなくてももらいたい。あなた方がより良い生を送ることこそ、亡くなったり行方不明になったりした身内や友人達の一番の慰めになることを心に留めておいて欲しい。そして、あなた方は孤独ではない。世界の善良で温かな友人達が、共に災難を乗り越えようとしている。

もし自分が宮崎監督だったら、日本の大地震に対して異なる考え方の人達に「世界の問題を解決しようとは思わないが、世界に憎悪、殺戮、暴行があっても、素晴らしいことも存在するということを伝えたい」（宮崎監督の談話より）と語りかけたい。

1937年という年から、中日両国には微妙ですっきりしない関係が始まった。日本の大地震後、中国社会には様々な観点が見られた。他人の不幸を喜ぶ人もいたが、同情する人はもっといた。ヒューマニズムと狭量な民族主義が社会全体の上で交錯し、個々人の思想のなかで交錯することさえあった。

『紅の豚』では、戦争に反対したせいでブタに変わってしまったポルコが「ファシストになるぐらいなら、ブタのほうがましだ」と自嘲気味につぶやいている。何が言いたいのかというと、実際、日本の民間にはこうした反戦主義者がたくさんいるし、中国人と仲良くしたがる友人もたくさんいるということだ。もし、日本人は誰でも好戦的な野心家であ

ると決めつける人がいるなら、その人には宮崎監督の作品を見るよう勧めたい。少なくとも、宮崎監督は絶対に平和の使者だからである。もう二度と狭量さと憎しみで人間性の輝きを遮ってしまわないで欲しい。本来の善良な心を偏見で覆い隠してしまわないで欲しい。こうしたことは恨みを解決する最良の方法ではないのだ。たとえどんなに難しくとも、皆さんには愛を信じ続けて欲しいのです。現実世界には儘ならないことが多くても、愛で晴天を支えることはできるから。

世界に何が起きても、私たちはそれらを平然と受け入れざるを得ないのだ。私たちが暮らすこの世界では、悲痛な災害や恐るべき邪悪な事件、自分たちでどうしようもない様々な問題が起きたりするが、私は『となりのトトロ』のキャッチフレーズを次のように書き換えたい。“幸福”、この不思議な生き物はきっとこの世界に暮らしていて、私たちが勇敢で素晴らしい心を持ち続けることさえできれば、きっと出会うことができるだろうと。